

【論文 (査読付)】

明治後期のハイカラ文化と洋風装身具

：和洋折中化したヴィクトリアン・ジュエリー 中島朋子 1

「森友学園問題」報道の検証 調査報道の在り方を考える 笠原一哉 23

シティブロモーションにおけるライフスタイル提案の意義と方法 河井孝仁 45

参画型の半構成的グループ・エンカウンターが自己と他者に対する態度変容に与える効果(1)
－効果測定のための尺度構成と信頼性および妥当性の検討－ 浅井千秋 61

保育士と教師の職場の人間関係に関する検討

－対人ストレス、人間関係論、同僚性、心理教育の観点からの分析と考察－ 有沢孝治 81

新有権者への政治教育とメディア・フレーム

－原発を争点とした実験室的調査から－ 小川恒夫 101

【研究ノート】

南フランス・ロゼール県南部の中世ロマネスク聖堂(3) 中川久嗣 119

映像制作ワークショップの創造性

「札幌国際芸術祭 2017 CM映像制作ワークショップ」の考察 石垣尚志 155

【翻訳】

Charlotte M. Brame 著『ドラ・ソーン(*Dora Thorne*)』(翻訳・その17) 堀 啓子 168

【研究交流会報告】

近代中国におけるアヘン・麻薬問題と日本居留民 小林元裕 175

北欧におけるホロコーストの記憶 池上佳助 185

近代日本の名作文学と西洋の廉価版小説の影響関係 堀 啓子 193

文化政策のなかの映画館

－ノルウェーの市営映画館についての調査研究－ 石垣尚志 201

【執筆者】

中島朋子	東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科教授
笠原一哉	東海大学文化社会学部広報メディア学科講師
河井孝仁	東海大学文化社会学部広報メディア学科教授
浅井千秋	東海大学文化社会学部心理・社会学科教授
有沢孝治	東海大学文化社会学部心理・社会学科教授
小川恒夫	東海大学文化社会学部心理・社会学科教授
中川久嗣	東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科教授
石垣尚志	東海大学文化社会学部心理・社会学科准教授
堀 啓子	東海大学文化社会学部文芸創作学科教授
小林元裕	東海大学文化社会学部アジア学科教授
池上佳助	東海大学文化社会学部北欧学科教授

【編集後記】

東海大学文学部は、2018年度から文学部と文化社会学部の2学部に改編されました。その結果、アジア文明学科と歴史学科東洋史専攻はアジア学科へ、ヨーロッパ文明学科とアメリカ文明学科はヨーロッパ・アメリカ学科へと改編され、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科とともに文化社会学部を構成する学科となりました。

これに伴い、2018年度から新たに『東海大学紀要文化社会学部』を電子版で発行することになり、第1号は2019年2月、第2号は同年10月に発行とされました。第3号となった今号には、論文6件、研究ノート2件、翻訳1件の他、文化社会学部が学部のFD活動の一環として開催している研究交流会で報告を担当した先生方による報告の記録4件を掲載しました。

今号は第1号と同様に充実した内容となりました。今後も研究成果の発表の場として発展させていきたいと思っております。

東海大学文化社会学部紀要委員会

委員長 飯塚浩一 文化社会学部広報メディア学科教授、文化社会学部長

発行者 東海大学文化社会学部 飯塚浩一

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1

Tel 0463-58-1211 (代)

【Articles】

Japanese Victorian Jewelry in the Late Meiji “High-Collar” Culture 1

NAKASHIMA Tomoko

Discipline of Verification in the Moritomo Gakuen Scandal 23

: Investigative Journalism by the Asahi Shimbun

KASAHARA Kazuya

Significance and Method of Lifestyle Proposal on City-promotion 45

KAWAI Takayoshi

Effects of Participational Semi-structured Group Encounter on Attitudes
toward Self and Others (1) 61

: Development of the Scales and Evaluation of their Reliability and Validity

ASAI Chiaki

Examination of the Relationships between Nursery Teachers and Teachers in the
Workplace 81

: Analysis and Consideration from the Viewpoint of Interpersonal Stress, Human
Relations Theory, Colleagueship, Psychoeducation

ARISAWA Koji

Political Education and Media Framing for Newly Eligible Voters 101

: An Experimental Survey on Nuclear Power

OGAWA Tsuneo

【Research Notes】

Les Églises Romanes dans le Département de la Lozère 119

; Les Cévennes et La Vallée Française.

NAKAGAWA Hisashi

Creativity in the Filmmaking Workshop 155

: a Case Study on the Workshop of Promotional Video for the Sapporo International Art
Festival 2017

ISHIGAKI Takashi

【Translation】

A Translation of *Dora Thorne* by Charlotte M. Brame, 17 168
HORI Keiko

【Research Presentation 】

Opium, Drug Problems and Japanese Residents in Modern China 175
KOBAYASHI Motohiro

Memory of Holocaust in the Nordic Countries 185
IKEGAMI Keisuke

An Influence between Japanese Modern Literature and Western Cheap Editions 193
HORI Keiko

Cinema in Cultural Policy : Research on the Municipal Cinemas in Norway 201
ISHIGAKI Takashi

『東海大学紀要文化社会学部』投稿規程及び執筆要領

1. 投稿規程

1) 投稿資格について

- ・ 第1執筆者として投稿する資格があるのは、文化社会学部の専任教員及び特任教員とする。なお、学内外の研究者等が共同執筆になることは、これを妨げない。
- ・ 文化社会学部の専任教員及び特任教員以外の者が投稿を希望する場合は、投稿を認めるか否かを文化社会学部紀要委員会において審議し、文化社会学部長の承認を得て結果を本人へ連絡する。

2) 投稿原稿について

- ・ 未公開の学術論文、研究ノート、調査研究報告、その他（訳註、解題、翻刻、翻訳、教授法研究、等）の投稿を受け付ける。
- ・ 投稿を希望する者は、文化社会学部紀要委員会から周知された申込要領に沿って、申込〆切日までに投稿申込を行う。
- ・ 投稿申込を受領された者は、投稿〆切日までに、文化社会学部紀要委員会から周知された執筆要領及び提出要領にしたがって原稿を執筆・提出する。
- ・ 文化社会学部紀要委員会は、投稿原稿の採否・掲載ジャンル・掲載順等を決定し、必要に応じて修正等を依頼する。
- ・ 掲載が決まった原稿が多数の場合、一部の原稿の掲載を次号へ送ることがある。

3) 著作物の電子化と公開について

- ・ 掲載された著作物の著作権は、執筆者が有する。
- ・ 掲載された著作物の執筆者は、当該の著作物に関する複製及び公衆送信を文化社会学部紀要委員会に対して許諾したものとみなす。同委員会が複製及び公衆送信を第三者へ委託した場合も同様とする。
- ・ 掲載された著作物は、東海大学機関リポジトリを通じてコンピュータ・ネットワーク上に公開する。

4) その他

- ・ 抜刷の制作を希望する場合は、執筆者がその実費を負担する。
- ・ 掲載された論文等を自身の著作等に転載す

る場合は、文化社会学部紀要委員会へ連絡する。

2. 執筆要領

1) 形式

- ・ 使用言語は、原則として日本語または英語とする。（以下、使用言語が日本語の場合を想定して記載する。日本語以外の場合は、日本語での執筆要領に準じるものとし、詳細は文化社会学部紀要委員会と協議する。）
- ・ 原稿はテンプレートに入力し、電子データを提出する。
- ・ 原稿は縦組みでも横組みでも可とする。
- ・ 注は本文末尾または章ごとに掲げる。本文末尾に掲げる際には、番号は全体を通し番号とする。
- ・ 原稿には通し番号（ページ数）を付す。
- ・ 図及び表はテンプレートに沿って本文中に入力する。また、図及び表には見出し（例：表一、図一、など）を付す。
- ・ 論文及び研究ノートは、英文タイトル、執筆者名の英文表記、Abstract（単語数100語程度）をテンプレートの該当箇所に記載する。
※ 執筆者名の英文表記は、原則として IIZUKA Koichi の表記方法とする。

2) 分量

- ・ 原則として総字数は3万2000字以内（注を含める）とする。（総字数が極めて大きくなる場合には、扱いについて文化社会学部紀要委員会と協議する。）
- ・ 図及び表は総字数には含めない。

3) 体裁

- ・ 原稿の中で表記を統一する。
- ・ 原稿の中で代名詞、副詞、接続詞、助動詞、助詞の表記を統一する。
例) 敢て=あえて、未だ=いまだ、及び=および、のように、原稿の中で表記が分けないようにする。
- ・ 和文は全角、欧文は半角で記述する。

※本規程及び要領の制定・改訂・廃止は、文化社会学部教授会の承認をもって行う。

(2018年11月21日制定)